
第10回 東京会場スキルアップミーティング

(2019年8月29日開催)

報告

SA協議会SA部会

2018-9-

**関東WG; 大賀、藤井、吉川、青野、塩見
渡辺、井上、山岸、藍原
事務局; 外山**

スキルアップミーティング(以後,SUM)報告項目

1. 開催計画(関東WGメンバーにて計画運営を実施)

東京会場

2. SUM参加者

3. 当日の内容報告

東京会場

4. 参加者アンケート結果

5. その他(懇親会)

* 講演資料は別PDFファイルを参照

(ファイルは、会員専用ページ「スキルアップミーティング」を参照)

1. SUM開催計画(東京会場)

開催概要【東京会場】

- 開催日時：2019年(令和元年)8月29日(木) 13時00分～17時00分
- 開催内容：講演とディスカッション
- 開催場所：機械振興会館 B3 研修2号室
- 定員：100名様 ●参加費：無料
- 懇親会費：4,000円 ※懇親会への参加は任意。
- 申込締切日：2019年8月2日←7月22日案内

【プログラム】

受付:12:30 開始

開会:13:00

終了:17:00

懇親会:17:45～19:45

【開催内容】

- ・SA部会部会長からの挨拶と基調講演 (60分)
向殿 政男 明治大学名誉教授 タイトル「新時代の安全確保活動」
- ・講演
向殿安全賞講演 (60分)
S-Tech Lab(エステックラボ)大西正紀様 「ロボット安全の現状と今後」
- ・第二部 グループディスカッション(60分)
「産業用ロボットのリスクアセスメント」
- ・その他 情報の提供 日本認証
- ・懇親会 希望者のみ (17:45～19:30)
(会費 4,000円;「講習会費」の領収書を発行します)
場所:浜松町駅周辺

2. 参加者結果

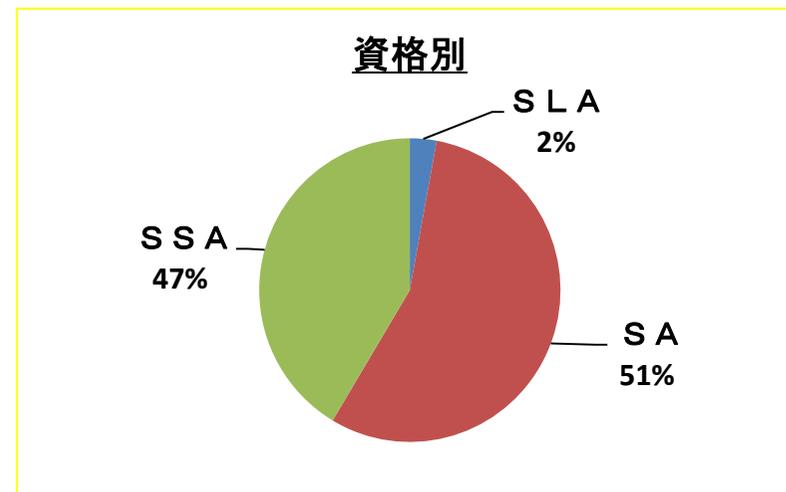
参加希望者

東京 114名(WG含め)

当日参加者

東京 89名+WG他11名

(懇親会参加者 23名)



参加者のSA資格別内訳別



会場満席の
参加者

3. 内容報告

東京会場

【プログラム】 13:00～17:15 司会;大賀氏(関東WGリーダー)

1. SA部会部会長からの挨拶と基調講演 (60分)

向殿 政男 明治大学名誉教授

タイトル「新時代の安全確保活動」

2. 講演

向殿安全賞講演 (60分)

S-Tech Lab(エステックラボ)大西正紀 様

タイトル「ロボット安全の現状と今後」

3. 第二部 グループディスカッション(60分) 進行;青野氏

テーマ「産業用ロボットのリスクアセスメント」

4. その他 情報の提供 日本認証

*懇親会 希望者のみ (17:45～19:30)

場所;華珍楼

3. 内容報告

1. 挨拶及び基調講演 SA 部会部会長 明治大学名誉教授 向殿 政男先生

● 部会長よりSA部会活動のスキルアップミーティングについて「会員相互の機械安全に関して交流を図り、日本に安全文化の展開を図るとともに、持っている知識経験を交換し、今後の業務、活動に活かしていただきたい」との挨拶があった。

● ご講演「新時代の安全確保活動」の講演で以下のポイントのプレゼンがあった。

- ・安全学について
- ・安全技術の進歩
- ・Safety 2.0 で何ができるか？
- ・協調安全に向けて
- ・トップのコミットメント
- ・まとめ

(講演資料は、SA協議会SA部会会員ページに掲示予定)



3. 内容報告

2. 向殿安全賞受賞者講演

S-Tech Lab(エステック ラボ)大西正紀 様
タイトル「ロボット安全の現状と今後」

* 大西氏より以下について講演があった。

- ・法規制と関連安全規格
- ・リスクアセスメントとリスク低減
- ・安全関連部の要求安全度
- ・ISO 10218-1:2011の概要
- ・ISO 10218-2:2011の概要
- ・ISO/TS 15066:2016の概要
- ・ISO 13849-1の概要
- ・IEC 62061の概要
- ・妥当性確認
- ・今後の展望



(講演資料は、SA協議会SA部会
会員ページに掲示予定)

3. 内容報告

第2部 グループディスカッション(GD)

テーマ「産業用ロボットのリスクアセスメント」

内容;ロボットを用いたEVバッテリーの組み立ライン(アニメーションを参考)で、現状安全方策などは何もない状況として、グループごとにRAシートに基づき討議を実施した。



2019年度東京スキルアップミーティング グループディスカッション用 リスクアセスメントシート					2019年8月29日	GD No. 氏名						
作業-危険源-危険状態-危険事象	保護方策前のリスク見積				リスク低減方策	制御方式 要求安全度 水準(Plr)	保護方策後のリスク見積					制御方式 妥当性 (PL)
	危害の 程度 S	頻度 発生確率 P	回避 可能性 P	リスク レベル			危害の 程度 S	頻度 発生確率 P	回避 可能性 P	確率 O	リスク	
例 作業者が具材を取るためコンベアに接近時にロボットハンドと衝突、または作業台との間に挟まれる	S2	F2	A2	4	作業台がロボットに接近すると、ロボットを原則制御する(JIS B 8433-1 6.6.4安全適合監視速度)	d	S2	F2	A2	O1	2	d
1												
2												

ディスカッションで
使用した
討議用シート

3. 内容報告

第2部 ディスカッション後の討議

グループディスカッション後に、代表して2グループから討議の内容発表があった。また、全体を通しての質疑があった。グループ発表及び質疑に対して、講演者の大西氏から講評及び回答を頂いた。

主な質疑は以下です。

- ・Q) 協働ロボット導入を進めている中、証明書とRAシートの提示が必要なのか。
- ・Q) 社内規定で協働ロボットの導入条件にハンド部分に刃物が使われていないことを定義しようとしているが、何か参考になる目安があれば教えて頂きたい。



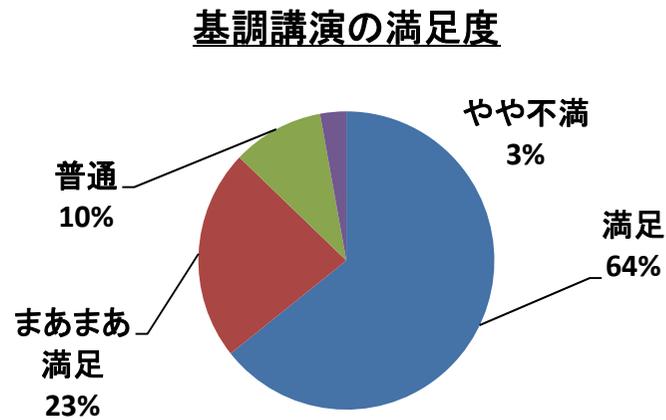
* 最後に日本認証から情報の提供として以下の説明があった。

- ・SA制度の状況
- ・最新動向講習会の紹介
- ・SA部会活動
- ・IGSAPの状況説明
- ・第4回向殿安全賞

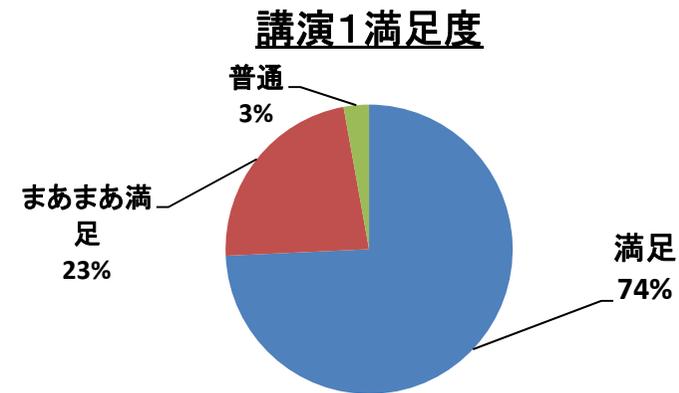
4. アンケート結果(70名から回収)

1/2

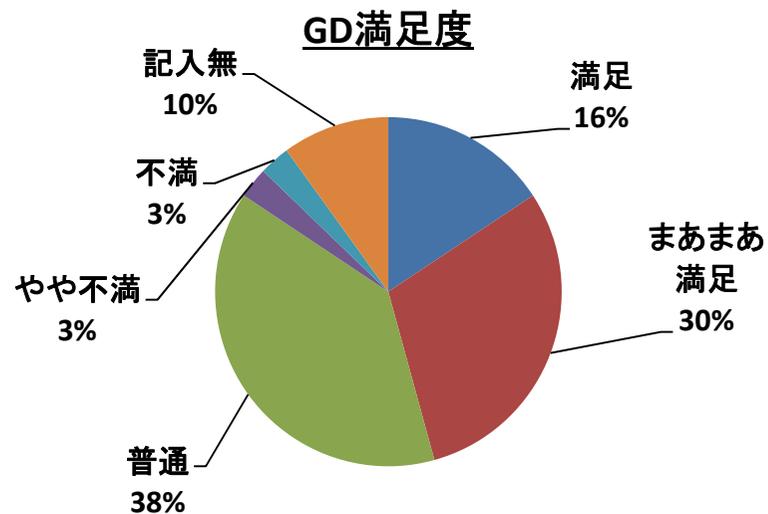
① 本日の講演についての感想は



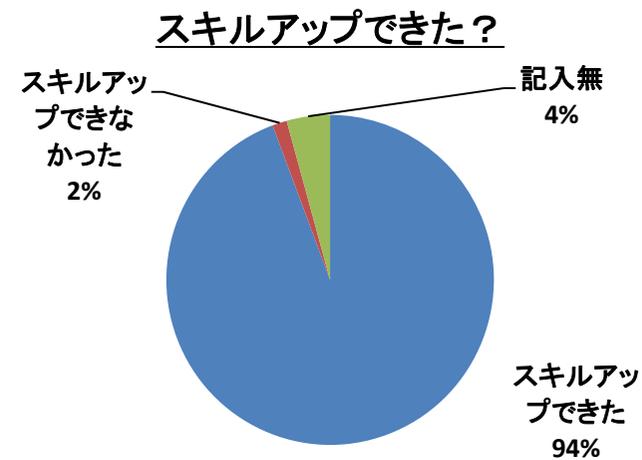
② 本日の向殿安全賞受賞講演についての感想は



③ グループディスカッションについて



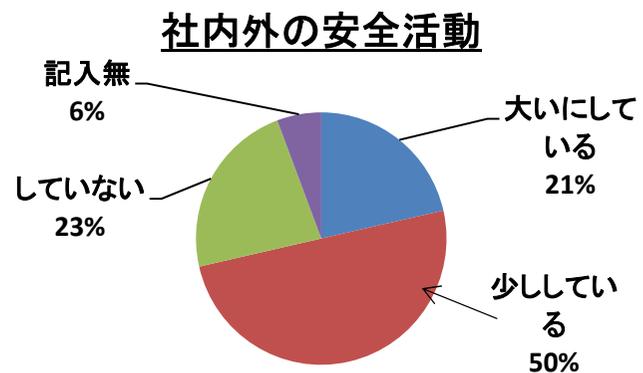
④ 参加してスキルアップできましたか?



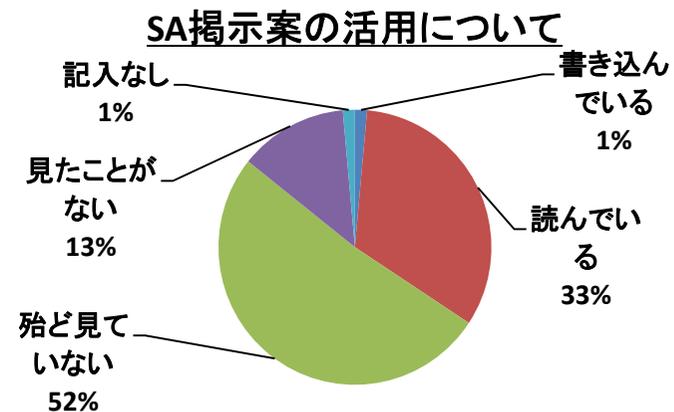
4. アンケート結果(70名から回収)

2/2

⑤ 社内外の安全活動について



⑥ SA部会の掲示板について



5. 纏め

- ・今回も大変に有意義なミーティングとなった。→スキルアップしたとのアンケート結果は、94%(過去最高)あった。(ミーティング、懇親会ともに多くの方が参加した-初めて実参加者が100名となった)
- ・今回は、機械振興会館の研修室を利用(120名収容能力)し、参加者の増員の要求に答えたが、申込みでは、短期間で110名を超える申し込みがあった。
- ・今回のSUMは、昨年度に引き続き向殿安全賞の受賞者からの講演を中心に企画した。講演については満足度合いも高く好評であった。
- ・向殿先生のSafety2.0の講演はわかりやすい内容で説明されましたが、もっと浸透活動が必要と感じた。
- ・大西先生の協働ロボットの導入のむずかしさについての講演は、旬の話題で参加者は熱心に聴講されていた。適宜なテーマとなった。
- ・今回は、グループディスカッションでは、T社の御協力の下、「ロボットを用いたEVバッテリーの組み立ライン(アニメーションを参考)について、グループごとにRAシートに基づき討議を実施した。テーマとしては、講演を受けてのロボットシステムということもあり、各グループともに活発な議論を展開していた。ただ、アンケートにも指摘されたように、時間的に検討及び議論の時間が少なかったとのコメントを多く頂いた。
- ・今後、参加された方の要望をもとに、リスクアセスメント勉強会の実施を検討する。
- ・RA実習では、参加者の経験の差がかなりあると感じられた(危険源にも頭を捻ってしまう方、対策と妥当性までしっかり書ける方)。しかしながら、普段なかなか実務でRAを行う方にとっては貴重な体験となったとの感想もあり、スキルアップする有益な場となった。
- ・協働ロボットについては、使用していない企業が多く、多くの企業がこれからと思われませんが、将来に向けての質疑もあって大変参考となる場となった。

5. その他

スキルアップミーティング後の交流会

交流会を参加者23名で実施しました。

他社の方と安全の土俵で交流することにより、このような場では、本音レベルでお話ができる大変に有意義でした。

